

医心 伝心

本年のスギ花粉は 「平年より多い」

富山県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて令和8年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、11月下旬に県内13カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm²当たり約4,900個程度と平均値の3,448個の1.4倍程度で、令和7年(5,002個/cm²)と同程度の飛散量となります。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、気温が高く降水量の少ない年ほど多く着花する傾向があります。中でも日照時間が最も関係が深いとされています。令和7年は、7・8月の平均日照時間が例年より非常に長くなりました。この為、日本気象協会の予測では北陸地方の飛散数は例年比140%、昨年比270%と非常に多い飛散数を提示していますが、富山県森林研究所の調査では雄花の付き方にばらつきがあり、このために昨年並みの飛散数になるものと予想しています。スギ花粉の飛散量は一年おきに豊凶を繰り返す傾向がありますが、ここ数年この傾向はみられなくなってきています。地球温暖化による異常気象のためでしょうか。

富山県医師会花粉症対策委員会では12年前より、ウェザーニュース社製のリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができるポールンロボを県内各地に設置し、誰もが無料で情報が得られるサービスを始めています。今年も県内9カ所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を行う予定です。昨年も飛散数が多かったため、多くの方に利用していただいたようです。また、従来のダーラム法という方法を併用し、正確性の確認を並行して行っていま

す。昨年の富山県医学会でも発表させていただきましたが、ここ数年は精度が上がっています。これらのデータはウェザーニュース社にも提供しており、さらに正確性を高めるよう協力しています。

花粉の飛散開始は1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。花粉症に対しては本格飛散開始の2週間ほど前からの初期治療が有効であるとされており、早めの対応が必要と思われます。現在のところ飛散開始はほぼ平年並みと予想されていますが、これからの気象状況にて前後します。正確な情報収集が必要です。

昨年の患者動向調査では、コロナ禍での感染対策のマスク着用は減少している一方、抗アレルギー薬のOTC化等々により、セルフメディケーションの意識が高まった影響があるものの、飛散数が多い日後は受診者が急増・集中する傾向があります。最新の状況を活かしていただくには、できるだけ早い情報提供が大切だと思われます。ウェザーニュース社からの機器の配布もより早くなっており、早めの情報提供体制を整える予定です。また、本格飛散が始まってからの飛散量は降水、風速及び風向といったその時期の気象条件によって大きく変化します。昨年はほぼ予想通りの飛散となりました。県医師会ホームページのリアルタイム花粉飛散情報ページに一定のアクセスを頂いており、情報を利用して頂ける環境が整っています。また、新聞やテレビなどでの飛散予測をご利用して頂いている方も多くのことと思われます。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていく予定です。ぜひ有効にご利用ください。